

ていねいな暮らしのあつたころ

佐野二彦の撮った伊深の里山



「柿を落とす子ども」 昭和38年9月11日撮影

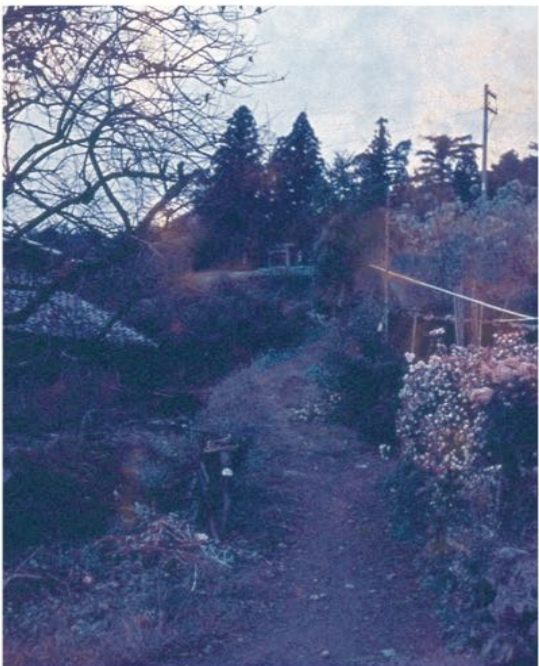
「柿を落とす子ども」

昭和30年代ごろまでは、どこの家にも敷地の中や畑に柿が植えてありました。

右の写真は、子どもが竹の棒を使って柿を採ろうとしている様子です。甘柿か渋柿かは分かりませんが、撮影日からすると、どちらもまだ「いろむ」前の青い実と思われるます。木の実がなっているのがおもしろく、採ってみたくなったのでしょ

う。柿の木を見上げて指図をしている子どもの姿も見えます。子どもが遊びで採る分には、敷地の中の柿でも大人は何も言いませんでした。

渋柿は、皮をむいて干し柿にしました。お祝い事の際には、干し柿の細く切ったものを入れた「柿なます」を作りました。また、渋柿のむいた皮は、乾燥させてナスの葉とともに、大根を漬けるときに一緒におけの中に入れました。柿の皮には臭い消しの効果が、ナスの葉には殺菌作用がありました。



「柿と菊」 昭和38年11月8日撮影